

IFA レフェリーキャンプ2022 開催レポート

茨城県内の1級も含めた審判員・審判インストラクター合同でトレーニングを行う2022年シーズン開幕に向けたIFAレフェリーキャンプを開催しました。昨年はコロナウイルス感染拡大の影響で中止、今回は感染症対策を行いながらプロフェッショナルレフェリー(以下「PR」)の松尾一さんをお迎えし、審判員へのアドバイトと交流を行っていただきました。

【日程】2022年1月8日(土)~1月9日(日)

【会場】神栖総合公園サッカー場、かみす防災アリーナ会議室

<スケジュール>

1月8日

10:00 フィットネストレーニング

13:30 座学1【自分と向き合う】

座学2【マネジメント「興味」】

1月9日

10:00 プラクティカルトレーニング



●フィットネストレーニング●

フィジカルトレーニング

走り方をテーマにして、よりきれいなフォームを作り、より速く走るための基本的なポイントを確認しながらトレーニングを行いました。

- ・体の軸を作るエクササイズ
- ・足裏で地面を押し感覚を身につけるエクササイズ
- ・腰を高く保つエクササイズ
- ・肩甲骨周りをスムーズに動かすエクササイズ

最後に、審判員が実際に行うインターバルテストを、1級審判員と同じタイム基準で10本ほど走り、トレーニングを終えました。

(文:柿沼亨)



●PRによる座学●

座学1 「自分と向き合う」

レフェリーのイメージをジェスチャーや言葉で表現。

ミスジャッジをした後に気持ちの切り替え！忘れよう！と意識を強く持つことで更に対立関係になりマイナスの効果になってしまう。

受け入れながら立ち位置を変えることで前向きになることができる。

課題の解決方法として自分⇄他人・過去⇄現在⇄未来に分類することで効果的に整理することができる。

座学2 「マネジメント（興味）」

競技者が何に興味を持っているかを整理すると対応しなければいけない順序が整理される。気持ちが変わると目が動く、体が動く。試合だけではなく普段の生活からも参考になる点が多い。



経験談から「審判が上手くなるとメンタルが強くなる」という幻像があったが実際には違った。ポジティブな方向に向けるために、どう思われているか気になる→予想する→じゃー自分は～しようと思えることができる。「今の自分に興味をもってそして自分を受け入れて次の一歩へ」と考えられるようになった。

松尾さんの本音を聞くことができ共感することが多く、参加者自身の気持ちが整理されるとともに特別な存在だった松尾さんを身近に感じる事ができました。相手が何に興味を持っているのかを探りながら次のステップをとるとという言葉に共感した審判員が多く、マネジメントの参考になりました。

(文:岡部拓人)

●プラクティカルトレーニング●

<カウンターアタックに対するポジショニング>

- ・ハーフェーライン付近から前線にロングボール、落下地点から攻撃方向に展開されるとき
のコンタクトプレーに対するポジション修正と見極め、次の展開への予測を整理。

対角線式審判法を基本としながら優先順位を整理すると判定をするために対角線から外れるときも必要。

<副審サイドの動きとポジショニング>

- ・副審の前での攻防に対して主審と副審が協力して正しい判定に導く。

特にペナルティーエリア周辺では得点に結びつく事象が増えるため、主審が見るべき事象、副審が見るべき事象を整理しながら正しい判定につなげる。



<オフサイドシチュエーション>

- 複数のFWとDFが交差するシーンを連続しての見極め

複数のFWとDFが交差する実践的なシーンを連続してオフサイドの見極めを行いました。
ステップや視線、体の向きなど見極めのアドバイスを行いました。

<ゲーム実践>

主審・副審は5分交代で松尾さん、1級審判員がチェックして、気づいた点をその場でフィードバックを行いました。

(文:鈴木昌・田尻智計・塚越由貴)

まずはキャンプ開催にあたりまして神栖市関係各所の皆様、プラクティカルトレーニングにおいてはデモンストレーターとしてご協力くださいました波崎高校/波崎柳川高校サッカー部の皆様、お忙しいところ調整頂きご指導くださいましたPRの松尾一さんへ感謝申し上げます。

コロナウイルス感染拡大に伴い、様々な制限がある中で参加者の高い意識によって感染症対策を行って開催することができました。

主な参加者は1～3級で普段からアクティブに活動を行っている審判員、審判インストラクターなど茨城県サッカー審判員の中心になって活動されている方でした。

松尾さんには事前の参加者アンケートを共有し、茨城県内の審判員・インストラクターの要望や課題を反映したスケジュールとなりました。「知識を教える」より、参加者と一緒に活動していたき気になるところに声掛け、気づきを与えていただきました。

座学では違った視点、表現からの見方や考え方を教えていただき初めて学んだかのような新鮮な感覚を受けました。表現方法の変化によって審判に限らず普段の生活からの学びも取り入れられるようになったと思います。また、審判活動をする中で生じる素直な気持ちとの向き合い方について経験から話されており、参加者は松尾さんをより身近に感じることができました。今まで感じていた気持ちが受け入れられるだけで安心し次へのステップにつながったと思います。

プラクティカルトレーニングでは、試合で起こりうる難しいシチュエーションに対して対応する中で、指導者はミスだけではなく良かった点もなぜ良かったのかを参加者にフィードバックしながら進めていました。インストラクターからの声掛けによって、参加者が順番を待っている時にも参加者同士で事象に対して分析している姿が見られました。松尾さんが慣れない副審を担当して参加者から自然と大きなリアクションがうまれるなど、いい雰囲気の中で行われました。

年明けのレフェリーキャンプは形を変えながら今回の開催で9回目(2021年は中止)を迎え、PRの方をお招きするようになってからは6回目となりました。多くの方にご参加頂き、本格的なシーズン開幕へ向けた県内審判員、インストラクターの合同トレーニングとして定着してきているのではないかと感じています。

茨城県審判委員会としては、今後も審判員、インストラクターの育成・強化及びより良い活動環境を目指したサポートをするために様々な取組みを行っていきたいと考えています。今シーズンもどうぞ宜しくお願い致します。(文:岡部拓人)



波崎高校/波崎柳川高校サッカー部の皆様 ご協力ありがとうございました!!